




▲コミセンに計測装置を取り付ける様子

新潟工科大学に就任し、4年目になる涌井講師。日本有数の豪雪地帯として知られる十日町で生まれました。涌井講師は、高校生の時に中越地震に遭い、避難所生活を経験しました。自身の経験から、今の研究分野の道に進むことを決意したそうです。震災の後、判定士によって建築物の『応急危険度判定』や『被災度区分判定』が行われます。建築物の外観を肉眼で判断しますが広範囲の地震では時間がかかり、被災者は避難所生活が長引くこととなります。そこで、涌井講師は建築物の損傷を迅速に評価できるシステムの開発を行っています。

Case No. 9



地震や大雪などの自然災害に備えた建物の健康診断を行う
新潟工科大学
建築・都市環境学系



▲小屋を使い、擬似積雪実験をしました

大学の『風・流体工学研究センター』と長岡市にある『雪氷防災研究センター』との共同研究として、屋根の重量を簡易に計測する装置の開発にも取り組んでいます。建物に雪の重さがどの程度作用しているかを数値化して、雪下ろしのタイミングを知らせてくれる装置です。この装置について家族に話してみると、「自分のタイミングで雪下ろしをするから、特段必要はない」と辛辣な意見をいただいたそうです。しかし、近年でも急な大雪により建物が損傷、倒壊する事例が報告されています。そういった被害を少しでも減らすことができるよう、厳しい意見に

現在、避難所としても使われている市内の各コミュニティセンターに加速度センサー等を設置し、震度2以下の微小地震の計測に成功し、解析結果との整合性を確認できました。今後、更に精密な調査を進めていくそうです。

研究者が創るモノと、利用者の欲しいモノの違い

Key Person

建築・都市環境学系

講師 涌井 将貴さん

市民の皆さんにひとこと

私は、研究の他にテニスが趣味で、駅前コートで汗を流すのが何よりのリフレッシュになります！大学内でも大会を主催したいなあ妄想したりしています。今後機会があれば、スポーツを通じた交流も出来たら嬉しく思います！



も負けず、利用者の役に立つよう研究を行っています。

起きる事を前提に、心と体に掛かる負担を最小限に抑えたい

災害は、人の手によって回避することはできません。災害後に「安心・安全に暮らせる為の策を練ること」なら可能だと涌井講師は考えます。災害時の二次災害はもちろん、人々の不安を少しでも解消できるように、「備えておいて良かった！」と心から安堵してもらおう瞬間のため、今日も涌井講師は試行錯誤を繰り返します。

この研究により、「災害に強い日本・災害に負けない日本」となることでしょうか。

お問い合わせ/入試広報課
TEL 0120-81881-40

大学 HP



オンライン学校説明会

自宅にいながら大学紹介の説明が受けられるサービスで、パソコンやスマートフォンなどのネット環境があれば参加可能です。入学試験や保護者向けのガイダンスを定期的に開催しています。詳しくは大学ホームページをご覧ください。

オープンキャンパス

7月25日(土)、26日(日)ともに13時30分~17時。新型コロナウイルス感染症予防の観点から高校生(保護者同伴可)限定での開催となります。詳しくは大学ホームページをご覧ください。

新潟工科大学からのお知らせ

お問い合わせ/入試広報課
TEL 0257-221-8188

大学 HP



新新潟産業大学からのお知らせ

オンラインでクラブ・サークル活動紹介を行いました。

6月3日(水)・10日(水)、主に新入生を対象に、「コロナウイルス感染が収束に向かい通学が可能になった時点ですぐにクラブ・サークル活動が出来るよう、オンラインでの活動紹介を行いました。説明会では、各クラブ・サークルが苦勞しながらパネルを画面に映しながら運動系と文科系のクラブ・サークル合わせて27団体が紹介を行いました。

